

虚血性脊髄障害への麻酔科的対策

Anesthetic management for preventing ischemic spinal cord injury

*垣花 学¹

*MANABU KAKINOHANA¹

1. 琉球大学大学院医学研究科

1. University of the Ryukyus

胸部下行・胸腹部大動脈手術における虚血性脊髄障害は、さまざまな基礎・臨床研究がなされたにもかかわらずその完全な解決には至っていない。1990年代には画期的な対策もなく、その発生頻度は5－20％と決して少なくなかった。2000年に入り、Coselliらが脳脊髄ドレナージ（CSFD）の効果を報告し世界的にCSFDが広がった。さらに、ヨーロッパや日本で使用されていた経頭蓋的運動誘発電位モニタリング（MEP）が米国でも使用されるようになり、MEPが世界的に広がるようになってきた。一方で、MEPモニタリングに関しては麻酔管理上いくつかの注意点が必要であり、麻酔科医としては周知しておく必要がある。さらに、基礎研究レベルではあるが麻薬性鎮痛薬が虚血性脊髄障害を悪化させる可能性が報告されており、この点についても麻酔科医は知識を持っていなければならない。今回のセミナーでは、上記の内容について概説する。